

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	GAO XUNHUI	
カナ又は漢字氏名	非公開	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	2年生	
4.学校名	香川大学	写真 タイトル
5.学種	大学院	
6.所属研究科・学部等名	香川大学 創発研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ～ 終了年月 20 25 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は日本の高度な学術環境や豊かな文化に惹かれ、日本への留学を決意しました。経済学を専門としている私は、日本の経済発展の歴史や現代社会での経済政策について直接学ぶ機会を持てることに魅力を感じました。留学前には、日本語の学習に力を入れ、日本の文化や習慣についても調べることで、現地での生活に少しでも早く馴染めるよう準備をしました。また、大学での学びを深めるため、関連分野の論文や文献を読み込み、基礎知識の向上に努めました。これからもこの貴重な機会を生かし、専門知識をさらに深めていきたいと考えております。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の目標は、専門分野である経済学を深く学ぶことと、国際的な視点を持てるようになることです。特に、日本の経済やビジネス環境について理解を深め、将来は日本と中国の架け橋となるような役割を果たしたいと考えています。現在のところ、授業で学んだ知識を通して、理論だけでなく日本の経済の実情についても理解が進んでいます。また、現地の友人や先生方との交流を通じて、日本でのビジネスマナーや価値観についても徐々に学べており、目標に近づいていると感じています。引き続き努力を重ね、さらなる成長を目指します。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 私の専攻は経済学で、授業では日本の経済政策や企業を中心に学んでいます。ディスカッションやケーススタディを通じて理論を実践に応用する力を養う授業が多く、学びがいがあります。学習環境も整っており、先生方が親身に指導して下さるため、質問や相談がしやすく、集中して取り組むことができます。このような恵まれた環境で努力を重ねた結果、修士課程のすべての科目でSおよびA評価を取得し、GPA 3.5を達成することができました。今後も引き続き努力を重ね、さらなる成長を目指したいと考えています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本に来てから、日本の文化や言語に触れる機会が増え、様々な挑戦を経験しました。特に日本語の学習では、初めは聞き取りや会話に苦労しましたが、日々の練習と日本人との交流を通じて、少しずつ自信を持てるようになりました。また、大学では日本人の学生とグループでプロジェクトを進めることが多く、文化の違いを理解しながら協力することの大切さを学びました。地域の人々とも交流する機会があり、祭りやイベントに参加して、日本の伝統や習慣について深く知ることができました。こうした経験を通じて、異文化への理解が深まり、柔軟な考え方やコミュニケーション能力が向上したと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、今後の私のキャリアに大きな影響を与えていると考えています。日本で学んだ経済学の知識や、実際のビジネス環境を理解することができたことで、将来は日本と中国を繋げるような国際的な仕事に携わりたいと思っています。また、日本の企業文化や社会の仕組みを学ぶことで、柔軟な考え方や適応力を養うことができ、グローバルな視野を持ったキャリアを築くための大きな土台ができたと感じています。将来的には、日中間のビジネスに関する仕事をしようと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

就職活動はできるだけ早く準備を始めることが大切だと思います。早い段階で会社説明会に参加したり、ウェブサイトで企業情報を集めたり、必要な資格や免許を確認したりすることが、就職活動に役立つと感じています。私は修士2年から準備を始めましたが、少し遅かったと感じています。履歴書やエントリーシートの作成が苦手で、面接の練習も十分にできていなかったため、就職活動が順調に進んでいるとは言えません。正直なところ、今は就職活動をしながら修士論文を執筆するのはとても難しいと感じています。そのため、まずは修士論文に集中し、完了したら今後の進路について考えたいと思っています。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

最初は慣れないことが多いかもしれませんが、諦めずに挑戦し続けてください。日本の文化や教育はとても魅力的で、学びの環境も充実しています。困難な時もあるかもしれませんが、それを乗り越えることで大きな成果を得られるはずです。挑戦を恐れず、自信を持って一歩踏み出してみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	CHEN YAFEI	
カナ又は漢字氏名	陳 雅菲	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	修士課程2年	
4.学校名	札幌国際大学	写真 タイトル 沼田町でのボランティア活動
5.学種	大学院	
6.所属研究科・学部等名	観光学研究科観光学専攻	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ～ 終了年月 20 25 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は高校生の頃からずっと日本のアニメを見るのが好きで、アニメを通して日本の歴史や文化、食べ物についてたくさん知り、日本に深い興味を持ちました。中国の大学ではビジネス日本語を専攻し、日本語能力試験N2に合格しました。そして、三年生の時に沖縄でのインターンシップに参加する機会に恵まれました。インターンシップでは、アニメの中に出てくるシーンと日本の社会の雰囲気を感じることができ、更に日本が好きになり、もっと長く居たいと思うようになりました。その頃ちょうど留学のプログラムがあり応募しました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 当初の目標は、日本人の友達を作ることと大学を無事に卒業することでした。卒業後はできれば日本で働きたいと漠然と考えていました。しかし、大学で学ぶ中で大学院への進学意欲が増し、準備をした結果、無事に進学することができました。大学や大学院、アルバイト先で様々な年代の日本人と出会い、日本人の友達も作ることができました。 卒業後は日本で就職したいと考えているので、現在も就職活動を頑張っています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 観光にまつわる様々な知識について学び、課題に対しての解決策を研究します。主に観光文化、観光振興、観光産業・事業、これら三つの諸問題に関して、地理や行動心理、経営など複数の学問的知見を用いアプローチします。学校には図書館やICTコモンズなど多様な学びの場が整備されているほか、フィールドワークも多く行われています。例えば、地元の観光地と連携し、地元の観光資源を活用した企画を考え、プレゼンし、地域貢献に繋がります。 成績に関しては、これまで“優”以上の成績を修めてきました。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

北海道旭川市の少し上に位置する沼田町で行われたマラソン大会にボランティアとして参加したことがあります。ボランティアの活動には参加者の受付やゼッケンの配布、参加者が正しいルートを走るためのコース案内、そして最後尾の管理などがあります。私は、暑い中でも走り続ける子どもたちの粘り強さに感銘を受けました。他のボランティアスタッフや地元の運営チームと連携し、大会をスムーズに進行させる経験を通じて、協力の大切さを実感することができました。また相手に分かりやすく伝える日本語力や相手を思いやって行動する対応力が向上したように感じます。そして、大会運営の一翼を担う責任感を実感し、成長することができました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は専門スキルや語学力を高めるだけでなく、多様な文化や考え方を理解する力が養われます。新しい環境での生活と学習を通して、どんな困難にも対応する力が身に付き、柔軟性と適応力が高まったように感じます。また、視野と就職の可能性を大きく広げてくれました。日本語力や日本での経験を活かし、日本と母国をつなぐ架け橋として活躍したいです。具体的に、日本で観光業や輸出入業に就きたいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本の就職活動は、卒業を控えた学生全員が同じ時期に活動を行うため、比較的集中します。時期を逃すと見つけにくかったり、既に採用が終わっていたりします。より多くの企業説明会に足を運び、興味のある会社や自分に合った仕事を見つけます。中国と日本の就職活動で最も大きな違いは、日本の企業が選考の一つとしてSPIなどのオンラインテストを要求していることです。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

留学生活は多彩で、積極的に様々な活動に参加することで、色々な分野の人と知り合うことができます。人との出会いは知識を深め、自分の成長に大いに役立ちます。ぜひ、有効的に時間を使って資格の勉強をすると良いと思います。将来の就職にも役立ちます！

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	ZUO JIAN		
カナ又は漢字氏名	左 健		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	2年		
4.学校名	城西国際大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	ヨルシカのliveにて
6.所属研究科・学部等名	人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ～ 終了年月 20 25 年 3 月		
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 中国の大学で日本語学部に入學して以来、ずっと機会があれば日本に留学したいと考えていました。日本のアニメやゲーム、音楽などが昔から大好きで、それらに囲まれた生活を、たとえ短い間でも体験してみたいという思いがありました。学部2年生のときに留学機構を訪ねましたが、費用が非常に高かったため、一度は諦めざるを得ませんでした。しかし、大学卒業前に学校から留学の機会をいただき、ついに日本へ留学することができました。日本に来る前には、日本語能力試験（JLPT）を受験し、無事にN1を取得しました。			
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の主な目標は、日中同時通訳に関する研究の深化、言語運用能力の向上、そして日本文化の理解です。特に、日本の通訳教育の現場や最新の研究成果を学び、自分の研究に活かすことを重視しています。現在、論文のテーマを確立し、指導教授の助言を得ながら仮説の具体化を進めていますが、完成にはさらなる分析が必要です。一方で、留学生活を通じてアニメやゲーム、音楽など日本の文化に触れる日々を楽しむことができました。これらの体験は、昔から憧れていた日本の生活を実感する貴重な機会となり、日常生活を充実させてくれています。研究と文化的な体験の両面で、学びと発見に満ちた留学生活を送っています。			
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 私は、通訳学や翻訳学、異文化コミュニケーションに関連する授業を中心に学んでいます。特に逐次通訳や同時通訳の実践的な訓練、翻訳理論や言語学の学習を通じて、理論と実践を結びつける力を養っています。学習環境は整っており、最新設備の整った通訳訓練室や豊富な専門書を備えた図書館が利用できるほか、実務経験豊富な教授陣の指導を受けられる点が魅力です。授業は主にレポートやプレゼンテーションで評価され、全体的に良好な成績を維持していますが、通訳練習ではさらなるスキル向上が必要だと感じています。充実した学びの環境の中で、自身の目標達成に向けて努力を続けています。			

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本での留学を通じて、日本の文化や言語に深く触れる貴重な経験をしました。特に、礼儀やマナー、そしてポップカルチャーへの興味が高まり、日常会話や学術的な日本語のスキルも大きく向上しました。例えば、縦結びが礼儀に反するとされることや、「あ？」という返事が相手に対して失礼に感じられることなど、留学前には全く知らなかったこともたくさんありました。これらの経験が、私の研究や日常生活において大きな学びと成長をもたらし、異文化理解や柔軟な思考を深める上で貴重な学びとなっています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学が、今後のキャリアに大きな影響を与えていると考えています。留学を通じて得た日本語能力や異文化理解は、通訳や翻訳をはじめとする国際的な職場での活躍に役立つでしょう。また、日本での研究活動や実務経験を通じて、通訳スキルや異文化間でのコミュニケーション能力が向上し、国際的な舞台での活躍の幅が広がると感じています。特に、中国と貿易往来している日系企業での就職を目指しており、留学で得た知識や経験がその実現に大きく貢献すると期待しています。今後は、日本での経験を活かし、貿易関連の分野で活躍しながら、中国と日本を結ぶ架け橋となることを目指しています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学を考えている皆さんへ、まずは一歩を踏み出す勇気を持って挑戦してみてください。日本は言語や文化、学問の分野で多くの学びと成長の機会を提供してくれる場所です。特に、通訳や翻訳、異文化コミュニケーションに興味がある方にとっては、専門的なスキルを磨く絶好の環境です。異なる価値観に触れ、自分の限界を超える経験ができるでしょう。日本での生活を通じて、言語能力や国際感覚の向上だけでなく、異なる文化や人々との交流を通じて柔軟な思考や問題解決能力も身につけることができます。困難なこともあるかもしれませんが、挑戦することで新たな視野が広がり、将来のキャリアに大きな自信をもたらしてくれます。ぜひ、自分の夢や目標を実現するために挑戦してみてください。応援しています！

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	CHEN ZIHENG	非公開
カナ又は漢字氏名	陳 梓恒	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	2年	
4.学校名	高千穂大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	経営学研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 大学時代に、日本語専攻でした。そこで、日本に興味をもつようになって、留学を考えました。主な準備は、日本語の勉強と練習だと思います。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 一番の目標は学位を取得することです。もう一つの目標は日本文化と景色を体験することです。振り返ってみると、ほぼ達成したと思います。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学習環境は素敵で、不便はありませんでした。授業内容もしっかりしていて、有意義な二年を過ごしたと思います。成績に関しては、先生の期待に応えたと思います。		
(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。 一番の挑戦は、やはり日本語を日本人らしく話すことだと思います。大学で日本語を四年間勉強したとはいえ、いざ話すことになると、なかなかうまくできないです。		

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

将来は、日本語を活用できるような職業に就職したいので、留学したことは、貴重な経験と助力になると思います。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

恐れずに、気軽に日本語を話してください。うまくなくてもいいから、話していくうちに上手になれます。重要なのは、うまくできるかではなく、話すことです。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	Liu Jiating	非公開
カナ又は漢字氏名	リュウ カテイ	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	大学院2年	
4.学校名	東京工科大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	バイオ・情報メディア研究科コンピュータサイエンス学科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ～ 終了年月 20 25 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私はマナーとルールを重視している整った社会雰囲気と日本人の真面目な仕事のやり方が魅力的だと感じます。日本は公共施設やインフラも充実しており、生活の質が高いと感じています。これらの理由から、日本で先端技術を学びたく、高品質で整備された社会環境を体験したいと思い、日本へ来ました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学目標は二つあり、一つは日本語と専門知識を活かして大学院を卒業すること、もう一つは日本での就職です。2025年3月に大学院を卒業できる見込みで、その目標は99%達成されています。また、就職活動において内定を得たため、その目標は100%達成されました。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 授業内容：ITに関連するプログラミングの作成が主な授業内容です。学習環境：学習環境は非常に良く、設備も整っているため、勉強しやすい環境です。成績：頑張った学習の結果、成績は上レベルであると思われます。		
(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。 日本の学生やアルバイトの人々と交流することで、日本の文化や習慣について深く学ぶことができました。この経験は私の視野を広げ、異なる文化への理解を深める大きな一歩となりました。さらに、これらの交流を通じて、私のコミュニケーションスキルも大いに向上しました。		

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本での就職を決め、一生懸命に就職活動を行い、日本のIT会社から内定を得ました。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

就活について、注意した方がいい所は二点あると思います。一つ目は、AIツールは便利ですが、生成される文法や単語に誤りが含まれることがあります。そのため、最終的には必ず日本人にチェックしてもらうことが重要です。二つ目は、面接の時、自然な言葉で回答することが重要です。原稿を読むのではなく、自然な会話と相互理解を目指すべきです。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

留学は、自分自身を挑戦し、自分自身を発見するための旅です。それは新しい友達を作り、新しい言語を学び、新しい文化を体験する機会です。それは自分自身を強くし、自分自身を理解する新たな方法を見つける機会です。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	MISHRA ASHUTOSH	
カナ又は漢字氏名	ミシュラ アシュトシュ	
2.出身国又は地域	インド	
3.学年	2	
4.学校名	大阪工業大学	
5.学種	大学院	写真 タイトル 日本で初めての旅行（奈良）
6.所属研究科・学部等名	ロボティクス&デザイン工学研究科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ～ 終了年月 20 25 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本に来る前に、日本語や日本の基本的なマナーについて学ぶ必要がありました。インドのバンガロールにある日本語学校に週末通って、そこでこれらのスキルを身につけました。また、日本への準備の一環として、JLPT（日本語能力試験）N5試験にも挑戦し、資格を取得しました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私は3つの目標を持って日本に来ました。修士号を取得すること、日本語をマスターすること、そして日本文化を深く経験することです。この3つの目標を達成することができ、とても誇りに思っています。大阪工業大学の大学院生として学問を深める一方、JLPT試験を合格し、日本語の流暢さを証明しました。また、日本文化を体験するために、茶道や生け花を正式に学び、日本の伝統を深く理解する機会を得ました。これらの経験は、私の個人的および専門的な成長に大きく貢献しました。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 大学院では、AI、機械学習、デザイン思考などの専門分野に関連する授業が中心で、実践的なプロジェクトやケーススタディを通じて学んでいます。学習環境は設備が整っており、オンライン学習やグループディスカッションがあります。日本語の授業では、日常的なコミュニケーション能力向上を重視し、会話や文章作成を実践的に学んでいます。成績は定期的なテストや課題、プロジェクトに基づいて評価され、フィードバックを活用して改善を図っています。また、ディスカッションや発表を通じて、他者との協働力や意見発信能力も高めています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本滞在中は、特に地元の学生や地域の人々との交流を通して、文化や言語にどっぷりと浸かることができました。忘れられない体験のひとつは、日本語の先生から伝統的な茶道を習ったことです。これにより、日本文化の核となる価値観である忍耐と尊敬への理解が深まりました。また、地元のお祭りにも参加し、屋台の準備を手伝いました。これらの経験は、私に適応力を身につけさせ、異文化コミュニケーション能力を向上させ、私の成長に役立ちました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の今後のキャリアにおいて非常に重要な影響を与えていると考えています。最先端の技術とイノベーションが進む日本で学ぶことにより、専門分野の知識を深めると同時に、実践的なスキルを身に付けることができます。特にロボティクスやAIの分野では、日本の企業や大学とのコラボレーションやインターンシップを通じて実践的な経験を積むことができ、国際的な視野も広がります。また、日本文化の理解や語学力を向上させることで、グローバルなビジネス環境においても貴重なスキルとなり、日系企業や国際的なプロジェクトにおいても活躍できる可能性が高まります。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、豊かで活気に満ちた文化に深く浸るまたとないチャンスです。また、日本語を勉強してみると、人とのつながりや地域の習慣を理解し、日常生活をより円滑に送ることができます。日本の人々は控えめですが、あなたが自分のことを理解してくれると知れば、心を開いてくれるでしょう。新しい経験を受け入れ、挑戦と自己成長の両方を覚悟してください。日本は、学問的な知識を身につけるだけでなく、世界や自分自身に対する理解や新たな発見を深めることができる場所です。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	LI JIALING		
カナ又は漢字氏名	李 佳玲		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	1		
4.学校名	倉敷芸術科学大学		
5.学種	大学院	写真 タイトル	作品作成中
6.所属研究科・学部等名	芸術研究科		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 24 年 4 月 ~ 終了年月 20 25 年 3 月		
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は幼い頃から日本の文化や雰囲気が好きだったので、日本に留学に来ました。来日する前に中国で一生懸命日本語を勉強しました。			
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本留学の目的は日本画を学ぶことです。現在、学部の課程を修了し、専門分野を深めるために修士課程に進学しています。			
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校のカリキュラムには毎週の総合講義のほか、指導教授のゼミもあります。学習環境や設備も非常に良いです。			
(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。 日本に来たばかりの頃、最も困ったのはカタカナと敬語でした。日常生活の中でさまざまな広告を見たり、日本人と会話したりすることで、カタカナと敬語の使い方に徐々に慣れてきました。			

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

専攻でも人生でも私の視野はさらに広がりました。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

来日する前に日本語をしっかりと勉強しておきましょう。機会があれば、日本特有の文化、例えば剣道、弓道、茶道などもぜひ体験してみてください。